



捨てればごみ、使えば資源、作ればアート

幼稚園の『牛乳パックでお皿を作ってみませんか』のおたよりが、サークルの始まりのきっかけでした。

リサイクルが叫ばれる昨今ですが、子供は元来、リサイクルが得意です。大人がゴミ箱に捨てようとするものも、「これちょうだい」と遊びに使います。「この心を大人も学びたい、子供たちと一緒に楽しい気持ちで、物を大切に、生かしていけたら」こんな趣旨で始まった幼稚園のPTAサークル活動のひとつです。

樋口洋画先生の指導の下、在園生のお母さんのみならず、卒園しても、また、おばあちゃんも参加されての楽しい集いもスタートして4年目に入りました。

これまで、牛乳パック、酒パックを利用した小物や、廃材を利用したリース、手作りハガキなどを手がけてきました。今まで捨てていたものも、先生のアイデアと腕にかかると、魔法のように変身してしまうのを、ワクワクしながら教えていただいています。

サークルは、毎週第1・3・5火曜日にひかり幼稚園で行っています。ぜひ、のぞいてみてください。



市民文芸

応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する地名をはっきり書き、〒989-0257白石市字亘理町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。

歌壇

高橋辰男 選

いも種を歩巾ではかり落とし終え仰く蔵王は未だ真白なり
阿部みさ子
手の痺れ腰の痛みを電話くれし子らには告げず昨日今日過ぐ
川村 静恵
涙してもう帰るかと言つ母をベッドに移し椅子たたみけり
大庭 良子
特産の我がふるさとの竹炭を子等へ送りぬ健康願いて
齋藤タカ子
清明の好季に菜園たずぬれば冬眠の蛙姿見せたり
八島 三郎
早春の畦に芽吹きしよもぎ草餅つきて亡き父母に供えん
高野 伝
ひととせの巡りは早し今年また敬老会の通知届きぬ
佐藤 ひで
始めてで最後にならん姉妹会今宵の宿は一つ部屋に寝る
平間 久子
さわやかな朝の目覚めに感謝して春の厨にガスを点せり
石沢 敏子
体調の戻りし八十路の老い夫は午前働き午後休みあり
高子うこん
評一首目、「歩巾ではかり」は実際にズバリ表現し、下句と相まって優れた歌となった。二首目、電話してくる子らに、体調不良をあえて告げない親心が切ない。三首目、もつと一緒にいてほしい病む母と帰らなければならぬ子と、親子の心情の交錯が共感を誘う。

俳壇

遠藤秋尾 選

餌運ぶ蟻に道よけ通る蟻
三浦 愛嶺
牡丹の芽小さき蕾かき抱く
大庭 良子
一合の米研ぐ水も温みたり
川村 静恵
白鳥の降りて残る殉職碑
高野 伝
春近し暖かき風運びをり
遠藤 忠臣
評一首目、家族連れが、城山での昼食風景。敷物の上で昼餉籠を開く楽しみの野遊び、笑顔が見える。空は青く、吹く風はやさしく暖かい。二首目、「かげろう」は春の季節、遠くの棚田に人がゆらゆらと動く。三首目、花の吉野山への旅をされた。乗り継いでやうと吉野へ着くあたりはもう暮れようとしている。花のみよしのが良い。四首目も吉野の花を見る心の高ぶりを句に。

柳壇

山田風流 選

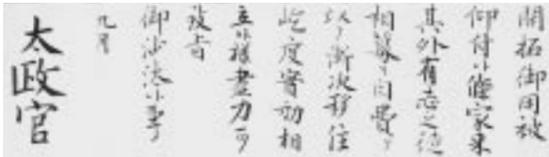
賞味期限過ぎた男の医者通り
佐藤 武雄
一合の酒に酔います今日の幸
草野 清
着メロに法話しらける通夜の席
四電 英夫
人生の悲喜こもこもに酒を盛り
小野嘉津子
うなづいて聞いてやるだけ娘の悩み
米沢 礼子
手の平を返すと風が騒ぎだす
北 ちづる
人の道尋ね尋ねて七十路
一條 芳子
花冷えに老婆の熱胸にしむ
大沼 妙子
介護法行き先見えぬ道標
大庭 良子
出不精の土竜顔出す春つらら
佐藤 愛子
評一首目、長寿社会になったおかげで人間の賞味期限も延びたはず、賞味期限とは言い得て妙。やはり健康第一。二首目、酒はそのときの気分が酔いが違ってくるもの、今日は幸せだったと感謝しながらいたたくと心地よく酔って、歌の一つもハミング。三首目、時代の後を歩く小生には「着メロ」とは何かわかりませんが、た。携帯電話の着信メロディーのこと。何年か後になると一人一台の普及がそうで、授業中でも通夜の席でも場違いなメロディーが。

白石の古文書②

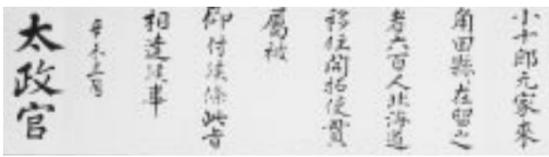
片倉家の北海道開拓資料②
新政府の開拓許可は、支配地の開拓はすべて自費で行うべしとのことであった。

移住計画が具体化すると、その資金の工面が大きな問題であった。城下沢端に、片倉家開拓役所を設置して準備を進めた。

まず、当面の移住経費や入植後の生活費などは、家屋敷や田畑、家財什器を売却整理し、加えて、三千両を城下の山崎屋(米竹清右衛門)から借用して捻出した。(明治三年五月)



「自費をもって跋渉開拓」の太政官辞令



「開拓使費」の辞令

しかし、移住までの生活維持もまた大変だった。そこで、角田県に対して、開拓志願者一戸につき田畑の借用と玄米三石六斗の支給を申し入れ、許可されて一息ついたが、こうした状況の中での第一回目の移住だったのである。

一方、その後の移住資金の調達も容易ではなかった。まして、生活費一切を含める自費開拓では、北海道の寒烈な気候では成功しないとの気分が人々の間に起き、開拓不参加に変更する人々も出てきた。

旧家老・佐藤孝郷などは、按察府にその窮状を訴え、「公費移住」を嘆願した。その結果、「六百名に北海道開拓使費を命ずる」との辞令を受け、旅費は支給・家は各自つくれ・農具は支給、さらに、三力年間の補助などの条件で、移住が続けられた。(白石市図書館所蔵)

国際コーナー

カロラインの

International Corner



先月、ホワイトキューブで開催された全日本こけしコンクールに、姉妹都市ハーストビルの子供たちが描いたこけしも展示されました。

オーストラリアでは、こけしはないようですが、子供たちはとても上手に描きました。オリンピックをテーマにしたものもありました！皆さんはご覧になりましたか？

このこけしの交流は、2000年の姉妹都市交流の最初のイベントでした。今年もハーストビル市との交流は活発になりそうです！

今年の交流スケジュールは次のとおりです。

6月・7月...グリーンリース使節団

毎年、9月に来白するグリーンリース使節団は、オリンピックの関係で、今月の29日に来白します。オーストラリアと日本の学校の違いを感じてもらうため、今年もハーストビル市の中学生たちに、市内の中学校へ体験入学していただきます。

7月・8月...白石市内の中学生派遣
グリーンリースと同じように、白石から中学

生8人をハーストビルに派遣して、ホームステイを楽しみながら体験入学する予定もあります。

10月...姉妹都市国際親善水泳大会

今年もスパッシュランドで水泳大会を行う予定です。今年の水泳大会は、体育の日と同じ時期なので、グッドタイミングでしょう！

11月...第4回白石市友好の翼

ハーストビル市との姉妹都市締結6周年を記念した、オーストラリアへの市民ツアーが計画されているそうです！皆さん、参加されませんか？



ハーストビル市の子供たちが描いたこけしドール